

科目名 (Eng)		異文化コミュニケーション入門 (Cross-Cultural Communication)							
担当教員		松江 俊一							
対象学年等	学科・学年		授業期間・区分・単位数・時間数			分野	形態	学修単位科目	
	コミュニケーション情報 学科	4	後期	必修 選択	必修	(30)	専門	C	○
目標基準 との対応	福島高専の教育目標との対応：(D-3)．(D-4)．(F-5)．								
	修了時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応：6)．								
授業の概要と方針		①日本国内における異文化交流及び環日本海諸国の異文化交流の現状を概観する。ヨーロッパの成立過程を把握する。 ②ロシア語の初級レベルをコミュニケーション能力を重視して学ぶ。							
到達目標		①現在の日中、日韓（朝鮮半島）、日露、日欧関係及び相互関係の成り立ちを理解し、日本語で表現できる。 ②ロシア語の基本文法、語彙を駆使して、基本的な会話パターンを習得する。							
授業計画									
	週	授業項目	理解すべき内容				事前学習		
後期	1	国内の異文化交流（1）	日本人の宗教観（1） 自己紹介				課題図書を授業日前に読了して授業に臨むこと。  授業メモをもとに復習を怠らないこと。		
	2	国内の異文化交流（2）	日本人の宗教観（2） 挨拶の表現						
	3	国内の異文化交流（3）	日本人の宗教観（3） 依頼の表現						
	4	国内の異文化交流（4）	日本人の宗教観（4） 所有の表現						
	5	環日本海諸国の異文化交流（1）	日・中・韓・露の国際関係（1） 依頼の表現（2）						
	6	環日本海諸国の異文化交流（2）	日・中・韓・露の国際関係（2） 数量の表現						
	7	後期中間試験							
	8	日欧関係（1）	ヨーロッパの宗教 時間の表現						
	9	日欧関係（2）	ヨーロッパの成立（1） 場所の表現						
	10	日欧関係（3）	ヨーロッパの成立（2） 方向の表現						
	11	日欧関係（4）	ヨーロッパの成立（3） 過去の表現						
	12	日欧関係（5）	国際法の起源（1） 嗜好の表現						
	13	日欧関係（6）	国際法の起源（2） 過去の表現（2）						
	14	日欧関係（7）	国際法の起源（3） 無人称文						
	15	前期学習したことの総括	前期期末試験解答用紙の返却と解説						
試験について		中間試験は授業時間中に50分間の試験を実施する。期末試験は50分の試験を実施する。							
評価方法		定期試験50%、課題等50%で評価する。							
教科書		配布資料							
参考書		授業中に指示する。							
関連科目		日本語特論、人間科学特講							
履修上の注意		文化は人間の精神活動の結果であり、その中心に言語がある。これまでに学んできたあらゆる知識を言語を中心に再構築してみよう。							

科目名 (Eng)	
-----------	--

担当教員								
対象学年等		学科・専攻・学年		授業期間・区分・単位数・時間数		分野	形態	学修単位科目
				前後期 通年	必修 選択			
目標基準 との対応	福島高専の教育目標との対応：							
	修了時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応：							
		JABEE基準1(1)との対応：			JABEE 必修科目	選択科目	要件科目	
授業の概要と方針								
到達目標								
授業計画								
	週	授業項目	理解すべき内容			事前学習		
後期	16							
	17							
	18							
	19							
	20							
	21							
	22							
	23							
	24							
	25							
	26							
	27							
	28							
29								
30								
試験について								
評価方法								
教科書								
参考書								
関連科目								
履修上の注意								